

平成23年度第4回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成23年11月24日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12人 傍聴者：なし
事務局： 中央図書館長、館長補佐兼庶務係長、館長補佐兼調査係長
花小金井図書館長、サービス係長、資料係長、上宿図書館長
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
 - ・ 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)
(これまでの報告)
 - 9月20日 第2次小平市子ども読書活動推進計画検討委員会
中央図書館
 - 9月28日 講演会「子どもに読みたい絵本～ロングセラーを見直してみよう～」
湯沢朱美氏(小平市子ども文庫協議会主催) 中央図書館
 - 9月29日 小平図書館友の会との懇談会 中央図書館
 - 10月13日・14日 全国図書館大会多摩大会
 - 10月22日 ブックリサイクル(一般図書)各図書館
 - 10月22日 「なとりちづ絵本原画展」～11月16日 中央図書館
 - 10月29日 児童文学講演会「わたしたちの絵本づくり」
大友康夫氏・なとりちづ氏 中央図書館
 - 11月16日 大人のためのおはなし会 小川西町図書館
 - 11月19日・26日 「父親のための絵本読み聞かせ講座」
花小金井南公民館(中央図書館職員講師)
 - 11月24日 講演会「わらべうた、その豊かな言葉の世界」
石川道子氏(小平市こども文庫連絡協議会主催) 中央図書館
 - (今後の予定)
 - 12月中 おたのしみ会 各図書館 予定
 - 12月 8日 児童文学講演会 スライド講座「ドリトル先生航海記」

- 池田正孝氏 中央図書館 予定
- 12月10日 福祉講演会「障がい者の自立と生活を支える介助犬」
小川西町図書館（会場：小川西町公民館） 予定
- 1月 5日 ふるさとの新聞元旦号展～12日 中央図書館
14日～18日 大沼図書館 予定
なつかしの写真展～31日 仲町図書館 予定
- 1月21日 ブックリサイクル（雑誌） 各図書館 予定
- 1月26日 平成23年度第5回図書館協議会 予定

- ・ 前回の協議会で報告をした貸出冊数の減少は、多摩六都の各市に問い合わせたところ、東久留米市と西東京市が小平市と同じ割合で減少しており、東村山市と清瀬市は、若干増加している。10月は前年並みの貸出数となり、減少の特別な理由ははっきりしていない。

② 平成22年度決算特別委員会について

学校図書館協力員について2人の委員から同様の内容で質問があった。

小学校の学校図書館協力員について、平成22年度は緊急雇用創出事業により実施されたが、今後はどうなるのか。配置の効果をどのように評価しているのかについての質問があった。

平成23年度は、市の予算として学校図書館との連携推進事業の中で実施している。また評価については、中学校では、開室日が増え、蔵書や部屋が利用しやすく整備された。小学校では、それに加え、授業に関連する資料の取りそろえなども行われ、児童生徒の利用が増えている。貸出総数や一人当たりの貸出冊数も増加しており、学校図書館の活性化に効果があったと評価していると答えている。

③ 小平市の行政評価について（資料 No. 2）

今年度も行政評価が行われた。個々の事務事業に対する評価と、さらにその上の施策レベルでの評価からなっている。

評価について、昨年度は、震災により臨時休館、開館時間の短縮があり、利用者数が減少したことの影響で、図書館運営管理事業の有効性の評価が「C」となった館がある。効率性の評価では、上宿図書館運営管理、大沼図書館・公民館施設管理事業の部分が「C」となっている。理由として修繕や委託費の増が影響している。その他は、「A」「B」で良好と考えられる。

この報告書は、図書館、市制資料コーナーで閲覧ができ、販売もしている。また、市のホームページでも公開しているので、他課の事業も閲覧できる。

④ 小平市図書館条例施行規則の改正について（資料 No. 3）

リクエストの受付件数を拡大するにあたって、サービスを効果的に導入する目的で、新たに貸出停止の規定を設けるよう規則を改正するため、パブリックコメントを9月5日から10月5日まで実施し、30人の方から65件の意見・要望をいただいた。

内容は貸出停止に関する意見23件、リクエストの拡大に関する意見16件、その他の意見26件であった。対応については、反映25件、一部反映10件、参考18件、反映しない12件となった。

これらのご意見等を慎重に検討した結果、「返却期限を3週間経過しても返却しない利用者に対して、返却するまで、貸出を停止する」よう改正するとともに、併せて「視聴覚資料の貸出点数を2点から3点に拡大する」についても規則を改正する。

⑤ 予約（リクエスト）サービスの拡大について（資料 No. 4）

規則を平成24年1月から改正し、1月5日からリクエストの受付件数を拡大する。具体的には、図書資料を5冊から10冊に、視聴覚資料を2点から3点予約できるようにする。

利用者への広報は、11月からチラシやポスター、市ホームページ、市報で行っている。貸出停止となる対象者には、督促はがき、督促メールで周知していく。

⑥ 仲町図書館の休館について（資料 No. 5）

仲町図書館は、仲町公民館との合築による建替えを進めており、本年度は実施設計を完成させ、来年度から平成25年度にかけて、解体工事及び建築工事を実施する。この解体工事に先立ち、図書などを移動させる必要があるため、仲町図書館を来年2月1日から平成26年5月末日までの予定で休館する。休館中の図書などの返却は、3月31日までは仲町図書館のブックポストに、4月1日からは、仲町公民館の事務室で返却本を受け取る。また、仲町公民館でのリクエスト本の貸出、及び絵本の読み聞かせを月1回程度、実施する予定である。

なお、市民へのお知らせは、12月から市報、市ホームページや図書館ホームページ、チラシ、ポスターなどで周知する予定である。

⑦ 第2次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況について（資料 No. 6）

関係課による進捗状況調査結果、子ども読書活動推進計画検討部会での検討を経て、平成22年度の進捗状況の概要がまとまった。

詳しい内容については図書館のホームページに掲載している。また、各図書館

では、ファイルに綴じ閲覧できるようにしている。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：行事の報告で「父親のための絵本読み聞かせ講座」は初めての試みだと思うが、どんな内容で参加者の反応はどうであったか。

事務局：公民館の事業で全3回の講座。1回目は市村久子氏による絵本についての講義。2回目は図書館職員による具体的な読み聞かせの講座。3回目はお父さん方に絵本を読んでもらう予定となっている。お父さん向きの講座で7名の参加があり、3歳以下のお子さんを持つお父さんが多かった。講座の後、お互いに情報交換していた。

委員：図書館のボランティアは中央図書館で、学校図書館のボランティアは生涯学習推進課が担当しているようだが、1つにできないのか。

事務局：学校の中に入っているボランティアは生涯学習推進課が担当している。中央図書館では、図書館独自の図書修理や整架のボランティアである。学校図書館ボランティアの研修会は、生涯学習推進課の予算で図書館の職員が講師となって行っている。

委員：市議会だよりでICタグ活用の地域児童の見守りネットワークシステムにおいて、カードリーダーを児童館・図書館・公民館等に設置できないかと質問があったが、図書館職員に負担がかかるようなものはお断りした方がよいのではないか。故障や子どもの安全のためでも、職員の負担、責任問題があると気の毒に思える。

事務局：この事業は、小平地域見守りネットワーク推進協議会で進めている。

委員：学校では、子どもがタッチすると登下校がわかるようになっている。紛失の再発行等は副校長が行っている。節電から、カードリーダーを夜消して朝つけている。故障の時はNTTに連絡する。自分の学校の子どもであるので負担にならないが、不特定多数の児童が来る公共施設では大変かもしれない。

委員：子ども読書推進計画の進捗状況について、説明がわかりやすくて良かった。検討委員会の進め方は関係各課が資料を持ち寄って一つ一つの項目ごとに報告をされて進めているのか。

事務局：事前に各関係課へ調査を依頼し、その回答資料をまとめ、確認作業や情報交換を行いながら進めている。

委員：仲町図書館の建替えにも関係しているが、この進捗状況の報告の中に、学校図書館との連携推進館と位置付けているために、平成26年度の開館前にその連携内容を検討するとなっているが、どういう進捗状況になっているのか。具体的に中央図書館の仕事をすべて仲町図書館に移すのか。

事務局：新しい仲町図書館の運営については、職員のなかで検討中である。学校図書館相談員・調べ学習の取りまとめや協力員・ボランティアの研修などを考えている。

会長：中央図書館で行っている全ての児童サービスを仲町図書館に移すということか。

事務局：主なところは移すが、全てではなく、調べ学習用図書の配送など各地区館と学校との連携は各図書館で行う。

委員：学校のブックトーク等できる職員が新仲町図書館に移るのか。

事務局：そこまで具体的には決っていない。

委員：今、ブックトークについて、とても充実してきているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

委員：本校（中学校）では、学校図書館協力員・学校図書館ボランティアの方々により図書などが整備され、子どもたちも本をよく読むようになった。3年間で2万ページ読むようにしている。また、特別支援学級の読み聞かせでボランティアに来てもらった。中には読み聞かせの上手な方もいる。人材バンクみたいなものに登録してもらって、公民館等の講座などに活用してもらえると広がりがでるのではないか。

委員：学校図書館ボランティア養成講座はその学校の保護者が対象となっているようだが、図書館ボランティア入門講座のボランティアは実際にはどれくらいの年代幅の人に募集があったのか。

事務局：図書館ボランティア入門講座は小学5年生から大学生までで、10名の参加があった。縦割りでグループを作って本の修理や書架整理等をしてもらった。新聞の取材もあった。

会長：ボランティアとしていろいろな形ある。図書館が主体となつてのボランティア入門講座、また図書館自身が図書館ボランティアとして一般市民に呼びかけているボランティア、それと学校が主体となっている学校図書館ボランティアの3種類でよろしいのか。

事務局：市民公募による一般ボランティアは、毎週水曜日に図書の修理・おはなし会のおみやげ作りなど、毎週木曜日は新聞の折り込み広告の整理をしている。その他古文書ボランティア、玉川上水の写真を整理している情報ボランティアがある。さらに大きく市民活動団体となると拡大写本の会、子ども文庫、朗読・点訳サークルも図書館を利用している団体といえる。

委員：乳幼児のサービスで、3、4歳児の検診時に図書館職員が出向いて絵本リストの配布や読み聞かせを行っているが、一歩進んでブックスタートは実施しないのか。

事務局：小平市の図書館としてブックスタートについては、単に絵本を与えるだけ

でなく、保護者の人が図書館でその子にあった本を選んで欲しいという考え方を持っている。

委員：ブックスタートの効果は。

委員：ブックスタートが広くこれまで継続されていることは、良いことではないか。ただ、選書の問題もあり、何冊かのリストの中から選んでもらう方が読書と直接結びつくのではないか。全国的にどのような評価を得ているかはわからない。

委員：図書館の考え方でよいのではと思っている。ただ、ブックスタートの事業がずっと続いて行われているので、効果があるのであれば予算化することも可能なのではないか。

委員：西東京市の図書館ではブックスタートを行っているが、子どもが二人いて同じ本を2冊いただき、もったいないと思った。選書の問題もあるので選ばせてもらえたらよいと思った。

事務局：健康センターで絵本のリストを配って、絵本のへやの紹介をしている。その効果があったのか中央図書館での絵本のへやの参加が増えている。50人ぐらいの時もあり、終わった後、母親同志で情報交換している。

委員：4点質問する。1点目は全国図書館大会・多摩大会についての報告を知りたい。2点目はブックリサイクルについて、リサイクル本がなくなっている図書館と有り余っている図書館があり、その差の状況はどうなっているのか。3点目は夏の節電対策でゴーヤ対策の結果、節電15%は達成されたのか。4点目は新仲町図書館の実施設計が終わっているのであれば、その内容はどのようなものか。

事務局：1点目の東京都多摩地域公立図書館大会は来年2月に行われるため、後日案内をする。全国図書館大会は、調布市を中心として行われた。10月13日は基調講演、シンポジウム、14日は18分科会に分かれて研究発表が行われた。2点目のブックリサイクルは1万9千冊程度、9割近く配布した。図書館によって駐車場の有り無しとか、出す資料が違うので、人気のある本は無くなるが、行政資料や政治経済など内容の硬い本が残る傾向にある。残った本は古紙としてリサイクルする。3点目の夏の節電対策については、節電行動計画の中で昨年度比で19%減の削減目標を立てた。ゴーヤを取りつけられない図書館もあったが、ゴーヤの効果に加え、照明機器の間引き、前年より涼しかった気候にも助けられたが、冷房の温度を28度設定にしたことによる結果、25～30%の節電になった。コストでは1館あたり10～20万円位の減が見込まれる。4点目の新仲町図書館の実施設計は、たてもの整備課を中心に電気、設備、構造等細かな部分の設計を進行中である。

委員：図書館協議会での提言が反映されるかどうかの報告はお願いしたい。

委員：武蔵野美術大学は、外国語絵本をたくさん所蔵しているので、うまく連携がとれるとよいのではないか。また、行政評価における有効性と効率性の違いがわからない。効率性はコストとの費用対効果を有効性のところに含めて考えたものなのか。

事務局：そうである。

委員：公的なしゃべり場もいいが、図書館員と利用者がお茶を飲みながらざっくばらんに図書館について話をし、意見を聴く場があるとよい。

委員：公民館では企画会議を利用者と公民館職員の懇談会として行っている。図書館でもお茶を飲みながら新刊の話等、意見を聴く場ができるとよい。

委員：図書館は、くつろげる雰囲気、地域の交流の場としての役割がでてくるのではないか。民間ならできるというようなことについて、公立の壁を破ることは難しいことなのか。

事務局：壁はいろいろあるが、できるところから考えていきたい。

委員：これからの図書館員はカウンセラー的な要素が要求されるだろう。

会長：ざっくばらんに話ができる場も、これから検討してもらえればと思う。

委員：全国図書館大会の第3分科会で、電子図書について公共図書館はまだあわてる必要はないのではとのことで少し安心した。

会長：行政評価の「C」という評価を受けたが、図書館として今後どう改善していくのか。「C」として受け取ってよいのか。

事務局：「C」としては震災の影響で休館したことにより利用が減ったことが要因にある。前年の障がい者サービスの[C]では、利用者の拡大、広報が必要であると感じ、郵送サービスの対象者に電話で利用について伺ってみたい、ハンデキャップサービスのご案内を作成するなど努力して改善された。

会長：震災の影響があったことを評価した人たちにきちんと伝わっているのかが気になっている。

事務局：もし休館していなかったら、1日あたりの平均から算出してみたところ、例年並で下がることはなかったと捉えている。

委員：評価はどこでするのか。

事務局：主管課が評価を受け留め改善する。市議会で質問を受けることもある。

会長：原案の状態でこれについて担当課から意見はありませんかという問合せがあつて、最終的な評価が出てくるのであれば納得するが、渡した数字だけの評価では図書館でもこの「C」は気になるのではないかと思う。

事務局：この評価は単純に数字により「A」「B」「C」の評価を付けている。目標や実績などに対して数字を入力すると自動的に「A」「B」「C」の評価が明らかになる仕組みになっている。

委員：民間では、当事者と評価事務局のやりとりがあって評価する。

会長：こちら側の意見のやりとりがなくいきなり「C」の評価は気になる。

(2) 協議事項

なし

(3) その他

なし